科目名	成人看護対象論（Adult Health Nursing）			科目コード	210
開講学科	看護学科	選択区分	必修	単位数（時間）	1単位（15時間）
科目区分	専門科目	履修時期	2年次前期	関連DP	看①②④
担当教員	島田　美鈴				
授業概要	成人期にある人の身体的、心理的、社会的特徴と健康問題の特徴・動向、健康段階別の特徴、基本的なアプローチ論、倫理的課題について、統計データや基礎理論、授業内で課題提示する学生自身による調査データを用いて教授する。授業では対象理解にとどまらず、“だからどう看護するか”、後に続く各方法論につながる思考を育成していく。授業は講義が中心となるが、授業内の発問と応答、授業ごとに提出する質問・意見等への応答により双方向の学習にしていく。				
授業目標	成人期にある人のライフサイクル上の特徴と健康問題を理解し、その対象理解から看護方法につなげる思考を理解することができる。 1．成人期にある人の身体的・心理的・社会的特徴と健康問題を説明できる。 2．対象理解にもとづき、どう看護すればよいか考えることができる。 3．成人看護学の基礎となる諸概念・理論を知る。 4．看護実践への概念・理論の活かし方を理解することができる。				

授業計画

回	項目	内容
1	成人期の概念	科目オリエンテーション：成人看護対象論のカリキュラムにおける位置づけ、他の科目との関係について 成人（おとな）の概念、ライフサイクルと成人期の区分（青年期、壮年期、向老期）、成人期の人を理解するための視点について、【課題提示】
2	成人各期の特徴	インタビューデータ（課題）から見る成人各期の特徴（全体ワーク） 統計データから見る成人各期の特徴
3	成人各期の健康問題	国民衛生の動向で示されるデータから、成人各期における健康障害の特徴と動向の理解
4	健康段階別の対象理解と看護展開：総論	看護を導く理論活用の意義、健康状態の変化を捉える視点、健康段階別の対象者のニーズと求められる看護、健康障害や治療が人間の基本的欲求の充足状態にもたらす影響の理解と看護への展開
5	急性状態にある人の理解	急性状態にある人の生体内の反応を理解する理論（ストレス理論、生体侵襲理論）、急性状態にある人の心理的反応を理解する理論（コーピング理論、危機理論）を知り、看護への活用を考える。
6	中途障がいを負った人、慢性疾患とともに生きる成人の特徴の理解	障がいを残す人の回復過程の理解（障がい受容過程）、慢性疾患とともに生きる人の課題と特徴（病みの軌跡等）、成人学習者の特徴を理解する理論（アンドラゴジー）を知り、看護への活用を考える。
7	自己管理／行動変容を支援するアプローチの理解	行動変容を支援する理論（アドヒアランス、自己効力理論、エンパワーメント）を知り、看護への活用を考える。
8	成人看護における倫理的課題＆まとめ	成人看護における倫理的課題 （脳死・臓器移植、終末期医療、救急医療、臨床試験、等）

成績評価方法	授業中（30%）及び最終（70%）に課すレポート
教科書	大西和子ほか「成人看護学概論　第2版」（ヌーヴェルヒロカワ）
参考図書等	「国民衛生の動向（最新版）」（厚生労働統計協会）
授業時間外の学習について	第2回は事前課題のインタビュー結果をレポートにまとめて提出する。 第3回ー7回は各授業後にテキストの該当ページを復習すること。
関連科目	233 健康教育論、211 急性期看護方法論、212 慢性期看護方法論、 213 終末期・緩和ケア方法論、214 成人看護学急性期実習、215 成人看護学慢性期実習
備　　考	実　島田：看護師（医療機関）